

明石市におけるアカミミガメ駆除

三根佳奈子・谷口真理・上野真太郎

明石市ミシシippアカミミガメ対策協議会

(株)自然回復

Removal of Red-eared sliders in Akashi city.

By Kanako MINE, Mari TANIGUCHI, and Shintaro UENO

Council of Akashi Red-eared slider management

Nature Recovery Co., Ltd.

明石市では、全国に先駆けて外来種ミシシippアカミミガメ（以下、アカミミガメ）問題に取り組んできた。2011年5～10月に111箇所のため池のうち33箇所、カメ網を使用し調査を行ったところ、31箇所（94%）のため池でアカミミガメが確認された。捕獲されたカメの内訳はアカミミガメ374個体（69%）と最も多く、次いでクサガメ163個体（30%）、スッポン2個体（1%）で、日本固有種のニホンイシガメは捕獲されなかった。またアカミミガメのCPT（生息密度＝捕獲されたカメの数／設置した網の数）は、3.56と非常に高かった。2012年には特にアカミミガメが高密度に生息する皿池において、7～10月に連日駆除専用の定置網を設置してカメを捕獲し、アカミミガメ駆除を行った。駆除前後のアカミミガメのCPTは、8.14から0.00と減少したものの、2年後の2014年7月には5.86まで上昇した。2013年以降は市内の3箇所の河川において駆除を行った。2013～2015年の6～10月に谷八木川、2014～2015年6～10月に瀬戸川、2015年6～9月に赤根川において、河川の下流から上流にかけて、カメ網を1回あたり40～120個設置し、連日捕獲作業を行った。谷八木川では1797個体、瀬戸川では1812個体、赤根川では789個体のアカミミガメが捕獲された。駆除前後のCPTは谷八木川で3.5から0.6、瀬戸川で2.6から0.7、赤根川で3.9から0.3まで低下し、低密度な状態にすることができた。しかし谷八木川、瀬戸川においては駆除の効果は維持できず、駆除の翌年以降アカミミガメのCPTが上昇した（図1）。以上のことから、明石市には広範囲に、高い割合で、高密度にアカミミガメが生息しているのに対し、イシガメは絶滅寸前であることが明らかとなった。また、ため池と河川においては連日駆除することでアカミミガメを低密度な状態にすることができるものの、その効果を維持するためには継続的な捕獲作業が必要であることがわかった。

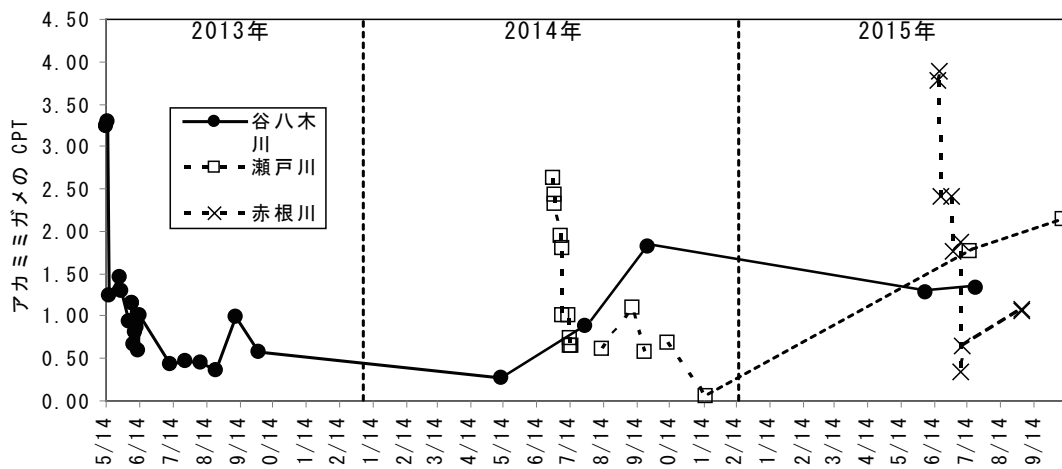


図1. 明石市に流れる3河川におけるアカミミガメのCPTの変化。